RAILWAY PHOTOGRAPHY & POETRY CONTEST 2020

鉄道写真詩コンテスト入賞作品集

写真と詩で伝える鉄道の魅力

PRIZE by ecotran

国土交通省鉄道局長賞

「ひとつだけ」　鈴木啓公（東京都）

ひとつだけお願いしてもいいですか
歌をうたってもらえませんか
小鳥のさえずりのような
みんなが楽しくなれる歌を

ひとつだけお願いしてもいいですか
本を読んでもらえませんか
友から来た手紙のような
みんながうれしくなれる本を

ひとつだけお願いしてもいいですか
光を照らしてもらえませんか
暗闇にぽつんとあるような
みんながしあわせになれる光を

JR山陰本線　玉造温泉～来待間

米屋こうじ賞

「雨の日大好き」　鎌倉　和（静岡県）

水玉模様の青い傘
イチゴの絵がある長靴に
君とおそろいの雨合羽
ふたりで傘を投げ出して
水たまりの中
飛び込んだ

ばしゃばしゃばしゃ
ぴしゃぴしゃぴしゃ

まっくろくろくろに
泥まみれ
「そろそろ帰りの電車がくるよ」
にっこり笑ったアジサイに
「また明日ね」って
声かけて
ふたりそろって
走ってく

JR飯田線水窪～向市場間

鉄道写真詩とは

鉄道写真詩とは、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせて鉄道の魅力や旅情を表現する芸術活動です。
いつもの鉄道、旅先での鉄道、その時々にとらえた鉄道の表情とともに作者の心情が伝わってきます。

Japan Network for Sustainable Transport and Environment
一般社団法人交通環境整備ネットワーク "ecotran"

入選
岡本由紀　（東京都）

「ゴールテープ」

歩んでいる限り
日付が変わるごとに
青いシグナル色に染まった
ゴールテープを切り
すかさずスタートしている
たとえ、一歩を踏み出せなくても
時の流れがグイっと背中を押して
ゴールテープに導いてくれる
歩むとは
ただただ
そのくりかえし

ひたちなか海浜鉄道　平磯～磯崎間

入選
角田大介　（青森県）

「おはよう」

眠気も覚める、冬の朝
吐く息も凍る新学期
君に逢えるのも、あと三ヶ月
気持ちを伝えないと。
……
「おはよう」
……
二人の頬が赤らんだのは
暖かい車内のせいだろうか

弘南鉄道弘南線　運動公園前駅

入選
志波英明　（東京都）

「さかいめの街」

熱を持った堤
緑青の波の中を駆け
さかいめに至った
僅かに色づいた鷺
川面の残月を崩し
夏の霞に羽ばたいた
ぱたり、大粒が標識を打った
雲立ち上がる日照り雨の昼下がり
白銀の列車が広大なさかいめを往還する
陽に霞む無縁なさかいめ
ごろり、遠雷がきこえた

南海高野線
浅香山～我孫子前間

講　評

◇　米屋こうじ　Yoneya Koji
鉄道写真家

表現とは内に秘めた思いを、何らかの手段を用いて外へ伝えてゆくこと。年齢や経験などの生い立ちから、その時々の心の有りようまで、人柄が作品に滲み出てくるものです。

静岡県の飯田線沿線に住む中学生、鎌倉和さんの「雨の日大好き」は、若々しさに溢れた写真と詩に魅了されました。写真は紫陽花と電車をローアングルで大胆に捉えた構図。画面右上を電車ではなく、緑の木々を背景にすることで、全体のバランスが良いうえに、暗めの背景によって雨粒が瑞々しく写されています。画質にやや荒さが見られますが、それも含めて若々しさの発露と受け止めました。傘、長靴、雨合羽など、写真に写っていないアイテムの描写から、リズミカルに続く流れの詩も秀逸です。

毎度繰り返すようですが、詩が写真の説明ではなく、多角的な目線から詠まれた作品が、見る（読む）人の心により強く響くのです。

◇　水無田気流　Minashita Kiriu
詩人・社会学者

今年で4回を迎える写真詩コンテストは、コロナ禍にも負けず昨年よりさらに多数のご応募をいただき、嬉しい悲鳴を上げながらの選考となりました。「詠み鉄」の皆さまの熱意をひしひしと感じております。

今回私が選出させていただいた大竹里佳さんの「赤カンカン」の詩は、見事な階段音数律（と、私は読んでいます）で構成されています。音数が階段を上がったり下がったりするようにリズミカルに刻まれる技法で、口ずさみやすく、歌うような韻律になるのが特徴です。例えば「なつの（３音）・おわりの（４音）・あめあがり（５音）」「めざして（４音）・あるく（３音）・そのほはば（５音）」など、ぽんぽん弾む音数が心地いいですね。この技法は、音数律ばかり整えようとすると言葉の内実が空疎になる恐れもあるのですが、写真詩の組み合わせの妙で、名鉄を眺める小さな子どもの後ろ姿と水溜りへの投影という牧歌的な雰囲気の写真にぴったり寄り添って、叙情的な雰囲気を醸し出しています。

本作に限らずではございますが、今年も「鉄道写真に映し出された世界」のエッセンスのようなものを汲み取り、言葉を合わせて行く……という、写真詩の可能性の広がりを感じました。来年も、皆さまの作品を楽しみにお待ちしております。

水無田気流賞

名鉄犬山線　柏森駅付近

「赤カンカン」　大竹里佳（愛知県）

夏の終わりの雨上がり
赤電車
めざして歩くその歩幅
生まれて最も長い距離
初めて履いた長靴の
重みでさえも嬉しくて
抱っこせがまず足進み
夕焼け小焼け
より濃く赤らむ名鉄を
指差し夢見る
我が子の背中

エコトラン賞

津軽鉄道　飯詰駅

「羅針盤」　佐々木博光（青森県）

迷いはない。
あの光る道だ
かすかな風のにおい
心地よい冷気

大地はまだ深い眠りの中
光を運んで
草木を起こす

国土交通省鉄道局後援　　一般社団法人交通環境整備ネットワーク主催

鉄道写真詩コンテスト2020　ー 写真と詩で伝える鉄道の魅力 ー

協力：鉄道博物館・東武博物館・日本現代詩歌文学館・東北福祉大学 鉄道交流ステーション

協賛：旅の手帖　・　交通新聞社　・　関東交通印刷

鉄道×文学の新しい表現に挑戦！　あなたの撮った鉄道写真にあなたの詩を添えて

「鉄道写真詩」は、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせて鉄道の魅力やその旅情を表現する芸術活動です。
本コンテストは、その登竜門としての役割を担うもので2017年に第1回を開催し、
本年で4回目となります。作品は2020年7月1日から9月30日の間、ホームページの
応募フォームより受付を行いました。
多数のご応募をいただき、ありがとうございました。
本コンテストの作品及び過去の受賞作品は、ホームページでご覧いただけます。

https://ecotran.or.jp/photo/2020/

JR東京駅

入選
伊藤まさひろ　（東京都）

「小さな新幹線」

しゅっしゅしゅっしゅ　ガタンゴトン
朝起きて、おはようの代わりに
しゅっぱつしんこう

いただきますも　しゅっぱつしんこう
トイレにいくにも　しゅっぱつしんこう
いってきますも　しゅっぱつしんこう

手をつなげば、れんけつしまーす
道路の白線は、線路に変身
雨の日は、パンタグラフをさして
いつでも全力疾走の新幹線

小さな車体は、今日も元気に
しゅっぱつしんこう
しゅっしゅしゅっしゅ　ガタンゴトン

JR大阪環状線　大正～弁天町間

入選
栗原正隆　（大阪府）

「囚われ」

鉄籠に心縛られ
がんじがらめ
閉塞感　囚われの身

鉄籠にがっちり囲われ
がんじがらめ
窒息感　囚われの身

我が身繋ぐ　鎖断ち切り
羽ばたける日は　いつのことか

西鉄天神大牟田線　雑餉隈~春日原間

入選
栗原弘恵　（福岡県）

「まあるい地球の片隅で」

奇跡と軌跡に紡がれた
このレールの上

キミ乗せて
駆け抜ける
通学列車

今日も走っている
まあるい地球の片隅で

未来なんて読めない時代
次の駅はどうか
花笑む未来でありますように…

キミ乗せて
駆け抜ける
通学列車

今日も走っていく
まあるい地球の片隅を

JR東海名古屋車両区

入選
久野道子　（愛知県）

「マジックアワー」

世界がオレンジ色に染まる黄昏時。
その無機質な機械の塊たちは、
一日の仕事を終え、明日に備え、
今は静かにたたずみ、
休息の時を迎える。

慌ただしい一日を忘れるように、
人も機械も、
時が穏やかに流れ、
穏やかに過ごせるように
気持ちもからだも変化する。

それがマジックアワー。

ゆいれーる　奥武山公園駅付近

入選
中村高士　（沖縄県）

「青空水族館」

カクレクマノミ、ナンヨウハギ、スズメダイ
たくさんのお魚さんたち
みんなに会いにいきたいな

ミナミハコフグ、ツノダシ、グルクン
そうだ、青い空を泳いでいこう
青い空ならどこまでもつながっている

ウミガメ、ナポレオン、マンタにトビエイ
沖縄から北海道まで泳いでいけるかな
沖縄から外国までも泳いでいけるかな

空をみたら、そこは青空水族館
白い雲は、なんのお魚にみえるかな